



大きな地球を守る、確かな技術

EKKグループが世界に誇る、シール精密技術。

その高度な技術から生まれるさまざまな製品は、

エンジンやプラント、産業機械の安全運転を支えるだけでなく、

機器内部から油、溶剤、冷媒等の漏えいを防ぎ、

地球環境の保全に大きく貢献しています。

会社概要 (2019年3月31日現在)

商号 イーグル工業株式会社

本社所在地 〒105-8587

東京都港区芝公園2丁目4番1号 芝パークビル

代表者 代表取締役会長兼社長 鶴 鉄二

設立 1964年10月1日

資本金 10,490,981,500円

決算日 3月31日

従業員数 6,482人(連結)

売上高・利益の推移と見通し



CONTENTS

2 目次/会社概要/編集方針

4 トップメッセージ

6 暮らしと社会を支えるEKKグループの事業と製品

8 特集「EKKグループの技術で持続可能な社会へ貢献」

10 EKKグループのCSR

Our CSR

12 国内の取り組み

14 海外の取り組み

16 従業員の取り組み

環境

18 環境マネジメント

20 環境保全活動

22 環境目的・目標と実績

23 環境データ

社会

24 品質への取り組み

25 人材育成/ダイバーシティへの取り組み

26 安全衛生・健康増進への取り組み

28 ステークホルダーとともに

ガバナンス

30 コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス

31 リスクマネジメント

編集方針

本報告書は、EKKグループが果たすべき企業の社会的責任 (CSR: Corporate Social Responsibility) に関する考え方や活動をステークホルダーの皆様によりわかりやすくお伝えし、ご理解いただくためのものです。

弊社のウェブサイトでは、労働安全衛生、環境、コンプライアンス等、EKKグループの各種取り組みに関する方針を掲載しています。

「CSR情報」ウェブサイト

URL <https://www.ekkeagle.com/jp/csr/>

報告対象期間：2018年度(2018年4月1日から2019年3月31日)の実績が中心ですが、2019年度の取り組みを一部含んでいます。

報告対象組織：イーグル工業株式会社及びその連結子会社を報告対象としています。

報告書発行日：2019年7月31日

参考にしたガイドライン：環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」、GRIスタンダード

CSR報告書に関するお問い合わせ：イーグル工業株式会社 業務本部 総務部 総務課

TEL 03-3432-3892 FAX 03-3432-5448 〒105-8587 東京都港区芝公園2丁目4番1号 芝パークビル

URL <https://www.ekkeagle.com/jp/>



良き企業市民として 社会と共生し さらに信頼される企業へ

EKKグループの中核企業であるイーグル工業株式会社は、東京オリンピックが開催された1964年に設立され、以降、日本をはじめ世界各国に子会社・関連会社を100社以上有するグローバル&パブリックカンパニーへと成長してまいりました。

現在、私たちは5つの事業（自動車・建設機械、一般産業機械、半導体、船用、航空宇宙）向けに、軸封（シール）装置を提供するソリューションプロバイダーとして、すべてのステークホルダーにとってなくてはならない存在価値を持つ中堅優良企業、グローバル・インテグラル・カンパニーを目指しています。

すべてのステークホルダーから必要とされ、良い会社であり続けることで、より良い社会の実現に貢献する。これが私たちの願いであり、CSRの考え方です。

私たちは、持続可能な社会の実現を目指した2030年までの国際的な目標である「SDGs（持続可能な開発目標）」に賛同し、その取り組みについて現状のCSR活動をもとに検討を開始しました。また国内外において、人権を尊重し、関係法令・国際ルール及びその精神を順守するとともに、最優先事項として安全衛生活動・環境保全・品質向上の3つに取り組んでいます。

安全衛生活動については、当社グループは「自部署で絶対に労働災害を起こさない」という決意のもと、1日も早く労働災害のない職場を従業員全員によって実現するとともに、心身ともに健康で、明るく、働きやすい職場づくりによって、生産性の向上を目指しています。

環境保全の取り組みについては、長期にわたって環境保全に貢献していくために、2050年に向けた環境長期目標について検討を始めました。また、「技術に裏打ちされた独自性ある商品・サービスをスピーディーに供給できるメーカー」として、次世代モビリティ、次世代エネルギー等に対応した、環境配慮型製品の開発・拡販に積極的に取り組むとともに、電気自動車（EV）向けに、ノーリーク・ノートルクに近い夢のメカニカルシールである「表面テクスチャーシール」製品を開発する等、私たちにしかできない環境トレンドに合った商品の開発を通じて、環境保全に貢献しています。

品質向上に向けた取り組みとしては、「永遠のゼロ」をスローガンに、昨年同様、苦情・不適合ゼロに向けた取り組みを全社で推進しています。

本誌『CSR報告書2019』は、ステークホルダーの皆様に対し、EKKグループの安全衛生活動や環境保全への取り組み、品質向上及び社会的な活動に対する考え方や実績をご紹介しております。ご高覧の上、皆様の忌憚のないご意見・ご感想をいただければ幸いです。

イーグル工業株式会社
代表取締役会長兼社長

鶴 鉄二

3カ年計画

当社グループは、2017年度より下記のとおり中長期的な成長を図るための3カ年計画を推進しております。

▶基本方針 『持続性ある企業体質の構築』— Fly Sky High!

▶期間 2017年度から2019年度

▶主要推進項目

1. 永遠のゼロ ————— 「顧客から信頼される製品品質の確保」「世界同一品質の確保」の実現
2. 次世代商品開発 ————— 「次世代モビリティ・エネルギー」市場向けに固有技術を活かした製品開発
3. 徹底したTCD、ムダ半 ————— 「Total Cost Down」「ムダの排除～すべてを半分に～」による利益創出
4. BCM ————— 「Business Continuity Management」の構築
5. EagleBurgmann三極全体最適経営 — 日本・インド・アジアパシフィック地域の全体最適に向けた経営推進
6. ERP導入/活用 ————— グローバル経営情報伝達・収集の基幹システムとしてのSAP導入完了
7. 人間尊重経営/健康・安全 ————— 真に働き甲斐のある職場の実現、社員の健康・安全の推進

▶最終年度の目標経営数値

当初目標として、売上高1,800億円、営業利益180億円と定めておりましたが、事業環境の急激な変化に伴い、売上高1,550億円、営業利益100億円に修正いたしました。

くらしと社会を支えるEKKグループの事業と製品

EKKグループは、シール技術、特殊溶接技術、動力伝達技術、バルブ技術を大きな柱に、各種メカニカルシール、特殊バルブ、船舶用製品、航空宇宙用製品、ベローズ関連製品、ダイヤフラムカップリング等をお届けしています。これらの製品は自動車、船舶、各種プラント、航空機やロケット等になくてはならない存在として広く利用され、世界中の人々のくらしや産業分野で貢献しています。



1 石油化学、鉄鋼、医薬、水、紙、食品

石油化学等の重要装置である大型コンプレッサーに使われるドライガスシール、工業用大型ポンプやプロセスポンプ・家庭用ポンプ等に使われるメカニカルシール、多くの産業界で使われている攪拌機用のシールユニット等をはじめとした、多様な製品群を揃えています。



API682
メタルベローズシール ドライガスシール

2 半導体

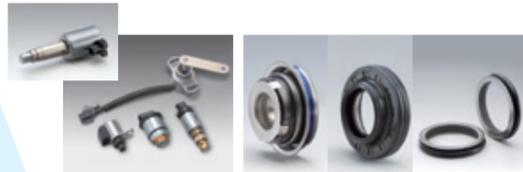
半導体製造装置やフラットディスプレイ製造装置の機器に使われる磁性流体シール、溶接金属ベローズ、シリコンウェハを研磨する化学研磨装置等に使われるロータリージョイント等があります。



溶接金属ベローズ 磁性流体シール

3 自動車、建設機械

カーエアコンやウォーターポンプのシール、各種装置用のソレノイドバルブ、センサー、建設機械の足回り用フローティングシール等、多彩な製品を安定的にお届けしています。



自動車用機器製品 シール製品

4 住宅設備

家庭用の温水洗浄便座、家庭用燃料電池、ヒートポンプ式給湯機等に使われる各種バルブ、井戸水ポンプやビル・マンション向け給水システムに使われるアキュムレータ等を提供し、皆様の快適な生活をサポートしています。



温水洗浄便座用バルブ 住宅設備用アキュムレータ

7 船舶

プロペラシャフトに装着される潤滑油の漏えいや海水の侵入を防ぐ船尾管シール装置、船尾管軸受等を提供しています。空気を利用して油の漏えいを完全に抑えた無公害の船尾管エアシールも多くの船舶に採用されています。



油潤滑用船尾管シール 水潤滑用ゴム軸受

5 航空宇宙

ロケットエンジンのターボポンプや航空機エンジンのメインシャフト・ギアボックス等に使われる各種シール等を供給しています。国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」に採用されているベローズアキュムレータもEKKグループ製品です。



ベローズアキュムレータ 航空機エンジン用シール

6 エネルギー

各種発電プラントのポンプや発電機用のシールの他、高温・高圧の条件で使用できる各種シールを提供しています。さらに、特殊バルブは多くの発電所に、またダイヤフラムカップリングは主に発電装置やLNG船の推進軸にそれぞれ採用されています。



ダイヤフラムカップリング 主蒸気隔離弁

8 その他

圧力センサ、ロードセル、デジタルコントローラ等を多様な業界（自動車・ゴム・半導体・水処理・産業機械・電池関連・食品・飲料水・医薬品等）の設備装置に採用され、品質・生産性向上、省エネに貢献しています。



圧力センサ 丸型デジタル圧力計

EKKグループの技術で持続可能な社会へ貢献

長年の実績・経験に基づいたEKKグループの技術とそれらの応用研究体制で、さまざまな機器類の進化と高性能化を支えるとともに、環境負荷低減等持続可能な社会の実現に向けた取り組みを進めています。

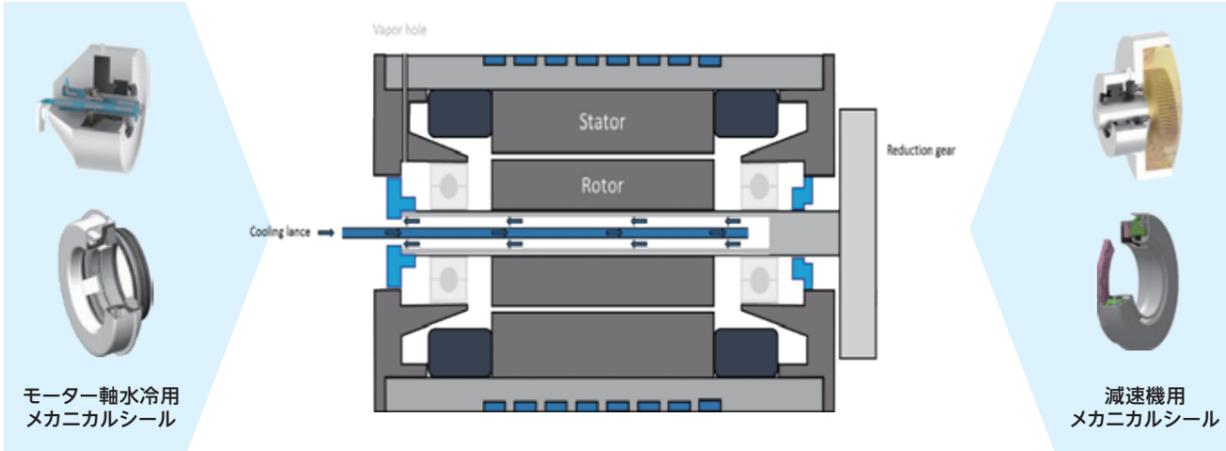


1 電気自動車を支えるメカニカルシールでCO₂排出量削減に貢献



近年、CO₂排出量削減をはじめとした環境規制や資源の節約等による持続可能な社会の実現に向けて、電気自動車（以下「EV」）は今後もますます増加していく見込みです。EKKグループでは、このような自動車産業の変革期において、過去から培ってきた技術に基づいてEVをはじめとした次世代自動車向け製品の開発に取り組み、社会全体の環境負荷低減を目指しています。EVの動力源となる駆動モーター及び減速機内の流体を密封する際に当社グループのシールが使用されており、モーターの運転効率とエネルギー損失低減に寄与しています。当社グループでは、今後も技術の向上により、EVの普及と高効率化に貢献し続けます。

● EVの駆動モーターへのメカニカルシール設置例



モーター軸水冷用メカニカルシール

減速機用メカニカルシール

2 高品質・高信頼の磁性流体シールで世界の半導体需要に応える



磁性流体シールとは、シャフト（回転軸）と磁石との間の磁力線に沿って磁性流体を保持し、シール膜（液体のOリング）が形成されることにより密封するシールで、半導体製造装置に使用されています。世界的な半導体需要に伴い、現在韓国では半導体製造装置市場の拡大が見込まれています。EKKグループのNEK Co., Ltd.（以下、NEK）は、韓国工場での磁性流体シールの現地生産をスタートさせました。そのような状況において、EKKグループは、世界的なIT技術の革新を担うべく、グローバルでの生産を推進していきます。



磁性流体シール装置

TOPIC

2019年4月23日、NEKは磁性流体シール生産のための第2工場開業式を行いました。開業式には、咸安郡の郡守（郡長）様や商工会様等総勢80名の関係者にご参加いただきました。来賓の皆様からは、不況の中での大きな投資と雇用拡大に対して感謝の言葉をいただくことができました。NEKは自動車部品が主体でしたが、新たに半導体関連製品が加わったことで、従業員が一丸となりさらなる拡販に取り組んでいきます。



テープカットの様子

NEK 第2工場事務棟

現場の声

NEKの磁性流体シール加工部門では、「環境影響の最小化（Minimize environmental footprints）」を常に意識して、改善活動に取り組んでいます。環境改善活動では、エネルギー消費量削減のための教育を繰り返し実施しています。有害化学物質管理では、工程で取り扱う有害化学物質について入庫から使用後の廃棄までのプロセスを明確にして管理するとともに、化学物質安全データシート（SDS）を現場に掲示しています。事故防止のための取り組みについては、防災機器の完備、教育の実施、点検基準に基づいた点検・管理を行っています。また、化学物質取扱者の教育を四半期ごとに実施して、化学物質に起因する環境・安全事故防止に努めています。その他、大気汚染物質の管理、工程で発生する廃棄物の管理等継続的に監視し、環境への影響を最小化させています。NEK第2工場は「澄んだ空気、快適な環境」で、「Q（品質）・C（コスト）・D（納期）」の向上に努めています。



NEK Co., Ltd.
SI統括部 製造課
2係長(加工部門)
趙 明來



EKKグループのCSR

EKKグループは持続可能な社会の実現に向け、さまざまなステークホルダーの皆様の期待に応えるため、積極的にCSR経営を推進しています。

CSRに関する考え方

EKKグループは、経営者が代わろうとも、従業員が移り変わってもいつまでもすべてのステークホルダーから誇りを持てる会社であり続け、良い会社であり続けることで、より良い社会の実現のために貢献することができるという考え方に基づいて、CSR活動に取り組んでいます。

CSR推進体制

EKKグループでは、関連部門が連携し、グループ全体でCSR活動を推進しています。重点課題については、経営会議、本部長室長会、CSR会議、品質責任者会議等を運用し、各専門部署が中心となりグループ全体で組織的に取り組んでいます。

国際的イニシアティブの尊重

2015年9月の「国連持続可能な開発サミット」において、「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択されました。SDGsは、さまざまな地球規模の課題を解決し、現在と将来の人々が幸せに暮らすことのできる持続可能な社会を実現するため、国連に加盟する全193カ国が合意した国際目標です。EKKグループは事業活動を通じてこの目標達成に向けて取り組み、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

● 17の各目標

<p>目標1 貧困</p> <p>あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる</p>	<p>目標2 飢餓</p> <p>飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する</p>	<p>目標3 保健</p> <p>あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する</p>	<p>目標4 教育</p> <p>すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する</p>	<p>目標5 ジェンダー</p> <p>ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う</p>	<p>目標6 水・衛生</p> <p>すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する</p>
<p>目標7 エネルギー</p> <p>すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する</p>	<p>目標8 経済成長と雇用</p> <p>包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する</p>	<p>目標9 インフラ、産業化、イノベーション</p> <p>強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る</p>	<p>目標10 不平等</p> <p>各国内及び各国間の不平等を是正する</p>	<p>目標11 持続可能な都市</p> <p>包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する</p>	<p>目標12 持続可能な消費と生産</p> <p>持続可能な生産消費形態を確保する</p>
<p>目標13 気候変動</p> <p>気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる</p>	<p>目標14 海洋資源</p> <p>持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する</p>	<p>目標15 陸上資源</p> <p>陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の防止・回復及び生物多様性の損失を阻止する</p>	<p>目標16 平和</p> <p>持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する</p>	<p>目標17 実施手段</p> <p>持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する</p>	<p>2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です</p>

ステークホルダーとのかかわり

EKKグループは、ステークホルダーの皆様からの期待や要請を把握し、情報を開示することで、当社グループとステークホルダーとが相互に理解を深めることができるよう努めています。これにより、社会と当社グループの持続的発展を目指しています。



● 実施している取り組み

お客様	株主・金融機関・投資家	取引先	地域社会	従業員	NPO・NGO	行政機関・各種団体
<ul style="list-style-type: none"> お客様満足度調査 展示会 製品情報の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 各種報告書発行(有価証券報告書、アニュアルレポート、CSR報告書等) ウェブサイト・IRサイト 決算説明会(年2回) 個別ミーティング 各種調査への回答 	<ul style="list-style-type: none"> 取引先説明会 品質監査 グリーン調達ガイドラインによる協働 	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会貢献活動 地域の方向けのイベント 	<ul style="list-style-type: none"> 自己申告制度 人材育成プログラム 労使協議会 	<ul style="list-style-type: none"> NPOへの支援活動・対話 	<ul style="list-style-type: none"> 業界団体への参加・活動

Our CSR

私たちのCSR

国内の取り組み



1 朝会での呼びかけ風景



2 人財育成教育訓練道場の様子



3 交通安全講話の様子



4 バイオ処理作業の様子



1 イーグル工業(株) 営業本部 九州支店



支店全員で取り組む 環境保全活動

当支店では「小さなことから始める環境保全活動」をスローガンに、支店全員で日々の活動に取り組むことを大切にしています。最近、特に休憩時の消灯、定時後のエアコンOFF、ごみの分別、印刷物の削減(資料のデータ保管)に力を入れています。どれもよく耳にする小さなことですが、身近なことだからこそ取り組みやすく、従業員の環境保全意識の向上に繋がっています。以前は特定の従業員が消灯やごみの分別を行う等個人での取り組みでしたが、朝会での呼びかけやオリジナルのごみ分別表の作成等により、今では気づいた従業員が率先して消灯する姿やお互いに分別方法を確認する姿が見られるようになりました。他にも社有車の燃費を確認しあうようになる等、支店全体で環境保全活動に取り組む雰囲気が生まれています。



ごみの分別表

2 島根イーグル(株)



人財育成教育訓練道場で バッチリ!

当社では、従業員への教育訓練及び力量向上を行うことを目的に、2014年に他の製造工程に先駆け、シール製造部リップシール1課に人財育成教育訓練道場「YASHIRO」を設置しました。YASHIROでは、新人作業者に当社従業員としての基本、安全靴の有効性を説く危険体感、手作業訓練等の教育を行い、一定の力量(条件)を満足させ、その後のOJT訓練へ入る仕組みとしています。新人教育以外にも、定期的な力量確認をカリキュラムに盛り込み、品質向上、ルール順守に対する意識を高めています。

現在では、他の製造工程や品質管理部門にも人財育成教育訓練道場を設置し、従業員一人ひとりが、ルールを正しく理解し、順守し、信頼される品質・高い安全意識を保つことができるよう、人財育成に取り組んでいます。



人財育成教育訓練道場「YASHIRO」の様子

3 イーグルブルグマンジャパン(株) 新潟事業場



交通事故・違反ゼロに 向けて

当事業場では、安全運転への取り組みとして、2018年12月に交通安全講話と運転適性診断を実施しました。交通安全講話では、NOK 損保サービス(株)様より、高速道路や交差点の走行に関する注意点、飲酒運転に対する法規制(罪の重さ)、備えておくべき保険の内容についてお話いただき、運転適性診断では、損害保険ジャパン日本興亜(株)様の運転適性診断訪問サービスを利用して、検査機器を用いた模擬運転を行い、運転者の性格上の特性(くせ)や傾向を洗い出しました。

今後も継続的に取り組んでいき、交通事故・違反のない職場づくりに努めます。



運転適性診断の様子

4 イーグル工業(株) 埼玉事業場



バイオ処理で土壌改質

当事業場は、自然に恵まれた環境の良い事業場です。しかし、過去に使用していたトリクロロエチレンにより、一部の土壌が汚染されています。土壌改質の取り組みとして2000年12月から続けてきた井戸水を汲み上げて浄化する方法では、浄化にとっても長い年月を要するため、浄化スピードが速い地中の微生物を活用する方法を取り入れました。目標は、2021年度中に、地下水質を基準値以下までにする事です。現在は、トリクロロエチレンが分解され2次・3次物質に変化し、浄化が順調に進んでいます。2019年度も微生物による汚染物質の分解を行い、浄化の早期完了に向け引き続き推進します。



栄養剤タンク



作業台の高さを調節して作業効率をアップ



節水の表示



産業医による健康講座

1 Eagle Industry France S.A.S. (フランス)



「自主研活動」による継続的改善と意識の向上

当社は、従業員約200人で保安と環境保全における継続的改善のため「自主研活動」の取り組みを開始しました。自主研活動とは、自身が苦手なこと、例えば、課題の抽出、なぜなぜ分析、コミュニケーション、問題の解決等を克服するための活動です。「ムリ」「ムラ」「ムダ」に着目し、従業員にとって、より作業しやすく安全な工程を作るために、安全、人間工学、品質、作業効率の面で改善を進めます。

自主研活動を修了した従業員には修了証の授与を行っています。取り組みの例として、床への危険箇所表示、安全と人間工学に関する課題解決、生産設備停止トラブルの対策、品質検査における改善、優れた取り組みの標準化等があります。

自主研活動が定着し、保安と環境保全に関する継続的改善が進むことを目標に、これからも従業員全員で意識を高く持って取り組んでいきます。



床の危険箇所表示

2 EagleBurgmann Philippines Inc. (フィリピン)



地球の資源を守る「MOTHER EARTHキャンペーン」

当社は、約20年間事務所を構えていたカピテ州のカーモナから、カピテ州のダスマリニャスに移転しました。約1,200m²という広々とした事務所の中には食堂や休憩室があり、従業員が働きやすく、そして安全な職場となっています。

他の国々と同様に、フィリピンでも水とエネルギーは貴重なものです。当社では「MOTHER EARTHキャンペーン」を展開し、積極的に節電と節水に取り組んでいます。従業員全員にオリエンテーションを実施し、環境保全への意識と理解を深めています。電気のスイッチと水道の近くには節電や節水を呼び掛けるシールを貼付しています。また、社内の掲示板や従業員間の回覧を活用したり、従業員への教育を継続して行ったりすることで、環境を守るという意識が根付いています。



節電の表示

3 Eagle Industry Taiwan Corporation (台湾)



従業員の心身の健康をサポート

当社では、従業員の健康維持・増進を図るため、2018年から保健室（兼授乳室）を設置し、正規社員の看護師を採用しました。看護師と契約産業医が連携し、職場で発生した緊急事故の処置や健康診断結果に基づくアドバイス、妊婦労働職場や特殊工程職場のメンタルヘルスケアに取り組み、従業員の心身の健康をサポートしています。また、地域消防隊や衛生所と連携し、定期的な危険予知・事故の基本処置知識の教育や、AED・CPR※等の取扱訓練を実施しています。従業員が健康に関する知識や緊急処置技能を身に付けることで、従業員とその家族、そして社会へ貢献しています。

※ CPR：心肺蘇生法



消防訓練の様子



お客様ときれいな海のために

私たち技術サービス担当者は、日頃からすべてのお客様に喜んでいただける製品とサービスをお届けできるよう努めています。例えば、船主様には、有害な油の漏えいから海を守る船尾管エアーシールシステムをおすすめしています。また、低燃費で、そして、きれいな海を守りながら船が航行できるように、確かな技術で船尾管シールの修理にあたっています。

EKK Eagle Asia Pacific Pte. Ltd.
技術サービス
Puong Yew, Robin Lau



確かな技術をお届けします。



メカニカルシールを整備してよみがえらせます。

限りある資源を有効活用

当社のメンテナンスセンターは、石油化学コンビナートを中心に工業用メカニカルシールの整備を行っており、日本全国に5カ所あります。高品質に整備し再使用することにより、資源枯渇や廃棄物削減の環境保全及び環境貢献にもなると考え、日々精進しています。また梅雨入りの前には事務所周辺の側溝清掃を営業課の全従業員で行い、地域貢献の一環として環境美化にも努めています。



イーグル工業(株)
営業本部 広島支店 水島営業課
佐藤 圭



正確に部品を納入します。

入念にチェック!

船舶向けシール装置の構成部品であるシールリングは、油との適合性により、数種類の材質がラインナップされています。修繕部品として出荷する際、異材を納入してしまうと油が海へ漏えいするリスクがあるため、営業からの受注情報に対し、仕様履歴・サービス記録等のチェックを行い、絶対に異材を出荷しないことが私のCSR活動です。



イーグル工業(株)
船用事業部 技術部 技術管理課
垣本 知奈美



EagleBurgmann India Pvt. Ltd.
人事総務課 エグゼクティブ
Oiendri Burman

地域社会とともに

当社は、地元の子どもやお年寄り定期的に交流して、さまざまな支援を行っています。当社の本社に隣接するスラム地区で暮らす40人の子どもたちや、慈善教育財団を通じて250人の恵まれない子どもたちへ、寄付金と一緒に、本・文房具や菓を寄付しています。また、当社の従業員は、盲学校に通う70人の児童や、老人ホームで暮らす高齢の女性と交流することに喜びを感じています。



今後も地域社会を支援します。



北海道から世界へ

私は品質管理係として、毎日当社で加工している部品の寸法検査及び品質維持に努めています。私たちが作り上げた部品がEKK製品として、世界のどこかでその地域の環境に貢献する製品になっているという誇りに思い、日々の生産活動に邁進しています。

北海道イーグル(株)
管理課 品質管理係
前川 智昭



製品と真剣に向き合います。



協力して取り組んでいます。

※ NEN3140: オランダ電気設備定期点検規格

健康・安全・環境に向けて

私は当社メンテナンス部門の責任者で、個人的にも職業上もHSEに興味があり、社内のHSE分科会のメンバーになりました。月1回、分科会のメンバーで集まり、各メンバーが取り組むことを決めています。私はNEN3140*に関連する技術的な課題や試験装置に関する課題に取り組んでいます。当社のHSEを高い水準で維持し、今後も改善していくために全力で取り組んでいきます。



Eagle Simrax B.V.
設備管理部
Roger Zoontjens



きめ細やかに指導します。

健康第一!

従業員の健康増進のため、社内健康診断時に保健所・市役所にご協力いただき、従業員が生活習慣を振り返ることができるよう、食事内容の見直し(意外に知らなかった食品に含まれる砂糖・塩の量)、手軽に短時間でできる運動(昼休みに歩けるコース案内)、禁煙(たばこの有害性)についての指導を行っています。今後も従業員の声を聞きながら、継続していきたいと思ひます。



イーグル工業(株)
AI・CI事業部 業務部 安全環境課 看護師
池田 利恵子



美しい地球を守りたい

私は日々、地球の資源を守り、環境にやさしい行動をとるよう心掛けています。節電のため使わない電化製品のプラグを必ず抜いて電源を切っています。また、ごみを減らすため、使い捨ての紙袋やビニール袋のかわりにエコバッグを使っています。今こそ、私たちが健康に暮らすことのできる美しい地球を守るために、一人ひとりが責任を自覚して取り組むときだと思います。



できることを考えて積極的に取り組みます。



環境への取り組み

地球環境の保全に貢献する製品を生み出すEKKグループは環境にやさしい企業でありたいと考え、環境負荷の低減に取り組んでいます。

環境マネジメント

EKKグループは、地球環境保護に貢献するため、グループ共通の環境方針を制定し、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムを運用しています。

環境方針

▶基本理念

イーグル工業株式会社及びそのグループ会社は、企業が社会の一員であること、及び私達が生産するシール・機器製品等は公害防止・省エネルギー等の環境保護に寄与する製品であることを踏まえ、事業の活動、製品及びサービスが地球規模での環境影響に深く関わりを持つことを自覚し、コンプライアンス（順法の精神）を活動の原点とし、自主的・継続的に地球環境の保全に取り組めます。

▶行動指針

1. 製品の開発にあたっては、環境影響に配慮します。
2. ライフサイクルの視点を考慮し、省資源・省エネルギー・温室効果ガス削減に努めます。
3. 廃棄物の低減と、持続可能な資源の利用のため再資源化に努めます。
4. 生物多様性を考慮した環境影響の継続的改善及び汚染の予防に努めます。
5. 法規制及び同意するその他の要求事項を順守します。（その他の要求事項とは、例えば「加入している工業会の環境指針」等をいいます。）
6. マネジメントレビューを通して環境目的・目標を設定し、適切な頻度で見直し、環境パフォーマンスの継続的向上を図ります。

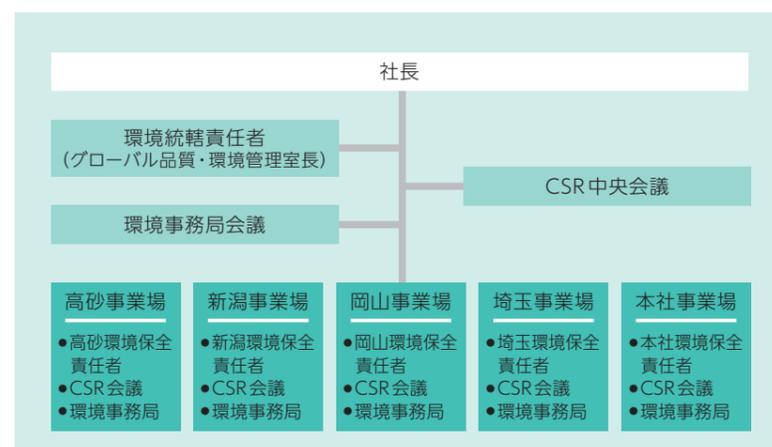
2017年4月1日改訂

▶環境マネジメント体制

EKKグループは、全社規模の環境マネジメント体制を整えています。体制の中心となるのは、社長を議長とし各事業場の環境保全責任者で構成される「CSR中央会議」です。ここで決定された目的・目標のさまざまな取り組みが環境統轄責任者によって各事業場に展開されます。

また、各事業場の環境保全責任者を議長とする「事業場CSR会議」が置かれ、ここで確認された各事業場の取り組みは「CSR中央会議」で報告され、経営層によるマネジメントレビューが実施されます。

●環境マネジメント体制図



▶ISO14001 認証取得状況

EKKグループの国内拠点ではISO14001:2015に対応した環境マネジメントシステムを運用しています。2018年度のISO14001 審査では審査対象にイーグルハイキャスト(株)と(株)バルコムを加えて、国内におけるEKKグループ全体でISO14001:2015の認証を取得しました。

グループ会社	認 証
イーグル工業(株)	維持
イーグルブルグマンジャパン(株)	維持
イーグル・エンジニアリング・エアロスペース(株)	維持
岡山イーグル(株)	維持
島根イーグル(株)	維持
広島イーグル(株)	維持
北海道イーグル(株)	維持
イーグルサービス(株) 本社及び岡山事務所	維持
イーグルハイキャスト(株)	新規取得
(株)バルコム 本社、工場及び関西営業所	新規取得

※2019年7月31日現在



ISO14001 審査の様子(イーグル工業(株) 水戸支店)

▶環境法規制の順守状況

毎年、EKKグループに適用される環境法規制を特定し、半期ごとにその順守状況を確認しています。2018年度は、EKKグループに適用したすべての環境法規制を順守しました。

EKKグループに適用される主な環境法規制	2018年度の順守状況
エネルギーの使用の合理化等に関する法律	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	○
大気汚染防止法	○
水質汚濁防止法	○
土壌汚染対策法	○
騒音規制法	○
振動規制法	○

▶内部監査

環境マネジメントシステムが有効に運用されているかを確認するため、毎年、すべての部署を対象に内部監査を行っています。2018年度から拠点横断型の内部監査を開始しました。各事業場の内部監査員が他の拠点の内部監査を行うことで、各部門にとっては新たな視点からの内部監査を受けることができ、内部監査員にとっては他の拠点の活動を知ることによってレベルアップにもつながります。今後も継続して行い、充実した環境保全活動に繋がります。

▶環境教育

毎年、EKKグループで働く従業員全員を対象とした環境の認識教育を実施しています。環境の専門知識がなくても理解しやすいようオリジナルのテキストを作成し、従業員一人ひとりが環境を守るために自分ができることを学び、身近なことから取り組むための機会となっています。

▶緊急事態対応訓練

事故や災害が発生した際に、環境汚染を防止・緩和するため、緊急時の対応手順を定め、定期的に緊急事態対応訓練を実施しています。訓練の結果を踏まえて、対応手順に問題がないか見直しを行い、緊急時に万全の対応ができるよう備えています。



若手社員も参加した、油の外部流出を想定した訓練の様子(イーグル工業(株) 呉事業場)

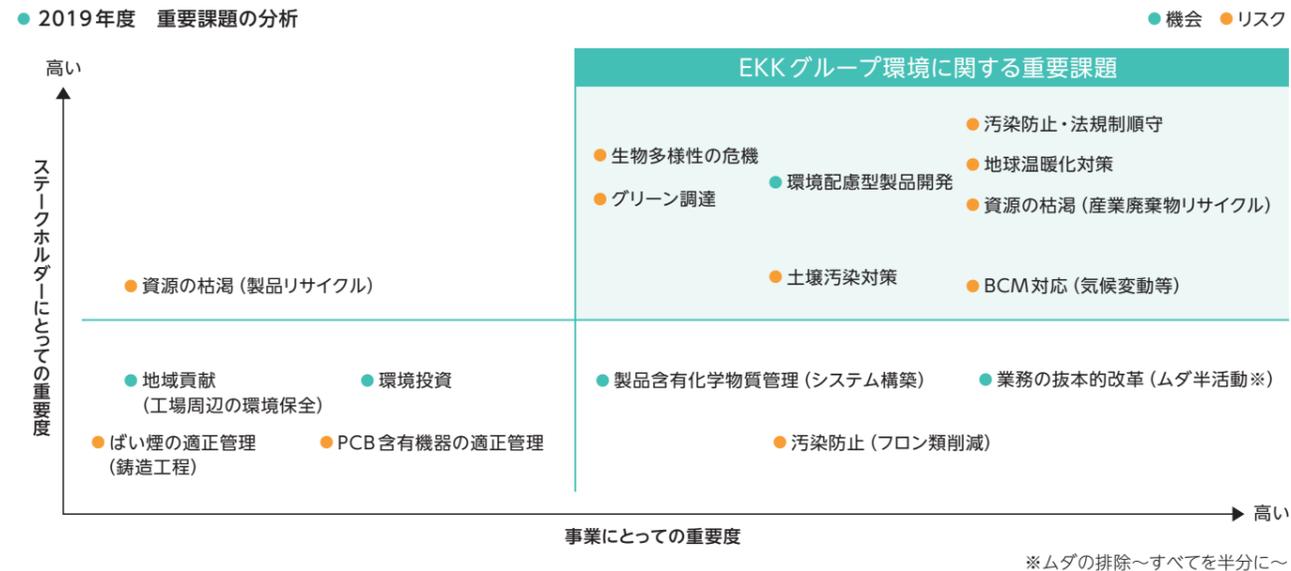
環境保全活動

EKKグループでは、自らの事業活動、製品及びサービスが地球規模での環境影響に深く関わりを持つことを自覚し、自主的・継続的に地球環境の保全に取り組んでいます。

▶環境に関する重要課題の分析

EKKグループでは、ステークホルダーの皆様の意見や期待の把握に努め、環境保全に関する課題をリスクと機会に分けて分析し、ステークホルダーと事業の双方にとって重要度の高い課題に取り組んでいます。

●2019年度 重要課題の分析



▶重要課題に基づいた中長期的な環境保全活動の取り組み

EKKグループは、中長期的な観点で環境保全活動に取り組んでいきます。

まず、エネルギー使用量、産業廃棄物、水資源の使用等、環境パフォーマンスの実態の見える化を進めます。そして、顕在化した課題に対して改善活動をより活性化させ、具体的な中長期目標値を設定し、環境パフォーマンスの向上に取り組んでいきます。

●中長期的な環境保全活動の流れ



▶EUの環境規制への対応

EU(欧州連合)は、使用済自動車や廃電気・電子機器が環境に与える負荷を低減するため、ELV指令(廃自動車指令)、RoHS指令(電気電子機器における特定有害物質使用制限)を制定しています。ELV指令では鉛、水銀、カドミウム、六価クロムを、RoHS指令ではこれら4物質に加えて臭素系難燃剤2物質(PBB、PBDE)、フタル酸エステル類4物質(DEHP、BBP、DBP、DIBP)の使用を禁止しています。これらの物質を使用している一部のEKKグループ製品については、お客様に適切な情報を提供するとともに、お客様と連携して代替化を進めています。

▶フロン類の削減

EKKグループでは、精密部品の洗浄等にオゾン層破壊物質であるジクロロペンタフルオロプロパン(HCFC-225)を使用しています。一部製品を対象とした代替化や、HCFC-225回収装置のメンテナンス頻度を上げることで、大気排出量の削減に取り組んできました。その結果、2018年度のHCFC-225排出量は、統計を開始した2003年度対比で70.8%の削減となりました。2020年度までの全廃に向け、専門メーカーと連携してHCFC-225の代替化を検討しています。

▶化学物質の管理

EKKグループでは、PRTR制度に従い、PRTR法(特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律)で定める化学物質の排出量・移動量を国へ届け出しています。

●PRTR法 第一種指定化学物質の排出・移動量

政令番号	第一種指定化学物質の名称	排出量(kg)				移動量(kg)	
		大気	公共用水域	事業所土壌	事業所埋立	下水道	事業所外
71	塩化第二鉄	0	0	0	0	0	0
185	ジクロロペンタフルオロプロパン	1,324	0	0	0	0	0
258	ヘキサメチレンテトラミン	0	0	0	0	0	379
300	トルエン	6,600	0	0	0	0	1,000
349	フェノール	0	0	0	0	0	253
合計		7,924	0	0	0	0	1,632

▶2018年度の主な環境投資内容

● 埼玉事業場: 14,983千円	地下水土壌汚染モニタリング調査 浄化井戸揚水ポンプ修繕工事
● 岡山事業場: 65,414千円	ユーティリティ監視システム更新 工場外壁遮熱対策
● 新潟事業場: 11,290千円	LED照明化 汚水槽清掃工事
● 高砂事業場: 852千円	遮熱ガラスフィルム貼付範囲の拡大 試験機用エネルギーモニタ追加工事
● 全社: 92,539千円	

●環境投資実績



環境目的・目標と実績

EKKグループでは、継続して環境保全活動に取り組むため、3カ年の中期的な環境目標を策定しています。2017年度より、CO₂排出量削減、産業廃棄物削減及び生物多様性保全への取り組みという3本柱で環境負荷の低減に取り組んでいます。

事業活動から発生する環境負荷を継続的に低減するために、2018年度に環境データ集計システムを導入しました。環境負荷に関するデータを細かくとることで、拠点ごとの改善のターゲットを特定し、環境負荷の低減に繋がります。今後は海外にもこの集計システムを展開し、海外も含めたEKKグループ全体で環境保全に向けた取り組みを行うことを目指しています。2018年度の活動実績は下表のとおりです。

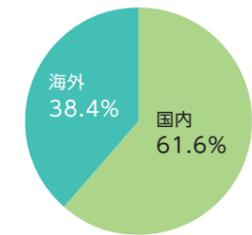
環境目的	2018年度目標	2018年度実績	評価	2019年～2021年度環境目標
環境配慮型製品の開発	環境配慮型製品の開発推進	各事業場設計部門の計画に基づき推進	○	1. 次世代を考慮した環境配慮型製品の開発推進 2. 環境配慮型製品の拡販
CO ₂ 排出量削減への取り組み	エネルギー使用量削減 1. 改善に繋がる使用エネルギーの見える化 2. CO ₂ 排出量を生産金額原単位で前年度対比1%以上削減 3. 改善案件を積み上げる仕組みの検討 4. 集計システムの導入(国内)	● CO ₂ 排出量を生産金額原単位で前年度対比0.2%削減 ● 国内拠点で環境データ集計システムを導入し、エネルギーに関する見える化と省エネルギーに向けた改善点を検討	×	1. 改善に繋がる使用エネルギーの見える化推進 2. CO ₂ 排出量を生産金額原単位で1%以上削減 3. 集計システムの改善
産業廃棄物削減への取り組み	リサイクル品目の拡大 1. 改善に繋がる廃棄物量の見える化 2. リサイクル率98%の維持継続 3. 改善案件を積み上げる仕組みの検討 4. 集計システムの導入(国内)	● リサイクル率98.4%で目標を達成 ● 国内拠点で環境データ集計システムを導入し、廃棄物に関する見える化と資源循環に向けた改善点を検討	○	1. 改善に繋がる廃棄物量の見える化推進 2. リサイクル率98%の維持継続 3. 集計システムの改善
生物多様性保全への取り組み	水資源保護への取り組み 1. 水使用量の監視 2. 削減計画の策定	● 水使用量を監視。2019年度も引き続き水使用量を監視し、結果を分析の上、水使用量の削減計画策定に向けた検討を推進	○	1. 水使用量の監視 2. 削減計画の検討、削減計画による推進
	適切な植栽管理 1. 適切な植栽管理(ルール決定) 2. 工場の緑地面積の管理	● 植栽管理のルールを決定 ● 工場立地法と各拠点所在地域の条例に沿って緑地面積率を順守	○	1. 適切な植栽管理 2. 工場の緑地面積の管理
法規制及び その他要求事項の順守	1. 順守率100% 2. 環境法規制違反をはじめとした重大問題の未然防止	● 順守率100%を達成 ● 環境法規制違反をはじめとした重大問題を未然防止	○	1. 順守率100% 2. 環境法規制違反をはじめとした重大問題の未然防止 3. 自然災害発生時の環境被害の未然防止(BCM活動との連携、情報共有) 4. RoHS指令制限対象のフタル酸エステル含有製品の全廃に向けた取り組み
環境意識の向上	(2019年度に新設)	各事業場における環境保全活動に対する手詰まり感やマンネリ感の発生	—	1. 経営層を含む全従業員に対する意識向上のための取り組み 2. 環境パフォーマンスの見える化による環境保全活動の活性化

環境データ

● CO₂排出量の推移



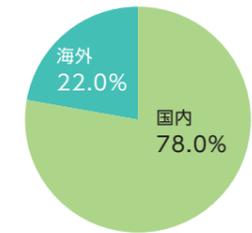
● CO₂排出量の国内・海外比(2018年度)



● リサイクル率の推移

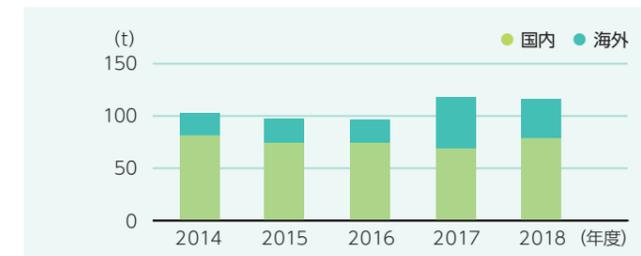


● 産業廃棄物排出量の国内・海外比(2018年度)



● VOC*排出量の推移

* VOC: 揮発性有機化合物



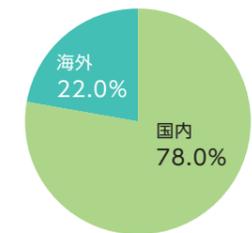
● VOC排出量の国内・海外比(2018年度)



● 水使用量の推移



● 水使用量の国内・海外比(2018年度)



環境データの集計対象 (拠点数)

● エネルギー使用量、VOC排出量、水使用量

拠点	2014	2015	2016	2017	2018
国内	1	1	1	1	1
国内	11	11	11	11	11
国内	16	16	19	18	18
海外	9	9	9	9	9

● リサイクル率、産業廃棄物排出量

拠点	2014	2015	2016	2017	2018
国内	10	10	10	10	11
海外	9	9	9	9	9

社会への取り組み

関連するSDGs



EKKグループの製品を支える従業員が働きやすい職場づくりに努め、高い品質の製品を提供し、ステークホルダーの皆様と社会に貢献しています。

品質への取り組み

お客様の視点に立って世の中に信頼される品質を提供し続けていくことは、EKKグループの使命であると位置付けています。そのため、「永遠のゼロ」という強固な信念のもと、グループ一丸となって品質の飽くなき改善・向上に取り組んでいます。

▶「永遠のゼロ」への取り組み

社長示達「永遠のゼロ」活動 (P.5 参照) の3年目となる2019年度は、これまでの苦情低減活動や、効果が出てきた不適合対策活動をもとに、一個たりとも市場に不具合品を流出させない品質管理体制の拡充を目指します。

▶品質表彰

2018年度の品質表彰の推薦でも多機能協業(部門横断チームでの活動)で活躍するチームが多く見受けられました。また、これまでは製造部門中心の推薦でしたが、間接部門が2部門推薦されました。「永遠のゼロ」を目指す島根イーグル(株)は多機能協業チームを編成し、油圧特性での不適合低減を実現しました。苦情の発生件数ゼロはもちろん、廃却金額や廃棄物の削減に大きく貢献したことが評価され、最優秀賞に選ばれました。

▶品質管理体制

EKKグループが考える品質管理体制として、2018年度は品質情報システムの導入による世界同一品質に向けて取り組みを始めました。今後も開発設計段階における各種ツールの導入や活用、工程・設備設計や生産現場でIoTやAI等の新技術を取り入れた生産改革や、自動化等の人に頼らない工程の構築等を行っていきます。



島根イーグル(株) 機器製造部 ATソレノイドバルブ課 不適合対策メンバー



イーグル工業(株) AI・CI 事業部不適合対策メンバー



品質向上活動

不適合対策会議のメンバーで、不適合の発生要因を探り、さまざまな部門の協力を得ながら改善活動を推進。早番と遅番の切り替え時の引継ぎでは、以前は紙の資料を手に引継ぎを行っていましたが、電子化されて効率的になりました。



早番と遅番の切り替え時の引き継ぎの様子

現場の声

2年前に当課へ異動してきた時には、不適合対策の真ただ中でした。2011年から取り組みを開始し、不適合対策と生産性向上のための活動が実を結び始めたのは2017年下期ごろからです。そこで強く感じたのは、一番大切なのは人であるということでした。課員皆のモチベーションが上がるような仕事の進め方を常に模索していきたい、また、人財育成教育訓練道場等を通じて技術やノウハウを伝承し、次世代のキーマンを育てていきたいと思っています。



島根イーグル(株) 機器製造部 ATソレノイドバルブ課 課長 石橋 貴志

人財育成 / ダイバーシティへの取り組み

EKKグループは、グループ経営理念の一つ「愛情と信頼に基づく人間尊重経営」を実践するため、従業員一人ひとりがその能力を出し切ることができる、働き甲斐のある職場づくりに努めています。

▶人財育成への取り組み

グローバル化等の企業を取り巻く環境が急激に変化する中、持続的な従業員の幸せ、企業としての成長を果たすために、教育体系・教育カリキュラムからなる人財育成プログラム(off-JT: Off The Job Training) を用意し、社内教育を実施しています。

人財育成プログラム

新人～マネジメント層に対し、大きく3つの教育区分(基礎・マネジメント・高度スキルアップ)からなる33課目(スタート時点)の各種研修を用意しており、経験豊かな社内講師が中心となって、可能な限り現地に出向き教育を行います。

また、社内ポータル上で運営を行っており、従業員は各自のパソコンから、研修開催予定・受講履歴等の閲覧・参加申し込み・レポート提出等を簡単に行うことが可能となっています。



「女性キャリアデザイン」研修の様子(イーグル工業(株)本社)



「財務諸表の読み方」研修の様子(イーグル工業(株)埼玉事業場)

▶ダイバーシティへの取り組み

EKKグループでは、人間尊重経営の実践を掲げ、すべての従業員がその能力を出し切ることができる働き甲斐のある企業体を目指し、ダイバーシティ・マネジメントを行っています。その一つとして女性のさらなる活躍を推進しています。

女性の活躍推進

女性の活躍推進の具体的な取り組みとして、従業員の能力・意欲に応じた育成指導を通じての職域の拡大、総合職・管理職への積極登用を行っています。また、管理職として活躍する女性従業員への定期的なフォロー面談を通じ、職場環境の問題点の洗い出しや解消に向けた取り組みも推進しています。さらには、育児・介護休業制度やフレックスタイム制度の充実により、従業員がより働きやすい職場づくりを推進しています。女性従業員の活躍により女性ならではの感性や視点が活かされ、組織の活性化や生産性の向上といった企業の価値創造の資源となっています。

安全衛生・健康増進への取り組み

朝、家族のために働きに出かけたが、大怪我をして帰って来たとしたら、「従業員とその家族を幸せにする」という最大の経営目標は決して達成されません。EKKグループは従業員のため、心身ともに健康で安全な職場環境づくりに取り組んでいます。

▶労働安全衛生方針、管理体制

EKKグループは、経営理念「愛情と信頼に基づく人間尊重経営」と安全基本理念「安全は人間尊重経営の礎 私の願い、私の使命」に従い、労働安全衛生活動に取り組んでいます。

また、毎年3月22日を「安全の誓いの日」に制定するとともに、従業員の安全優先の考え方を醸成を図るため、毎月部署ごとに職場安全衛生ミーティングを実施、取り組んでいます。

管理体制としては、事業場長が総括安全衛生管理者となり、各部門長を通してライン管理者と安全衛生専任部署のスタッフが連携する「ライン・スタッフ型」の安全衛生管理組織を設け、OHSAS18001の考え方にに基づき、安全衛生活動を推進しています。2019年度よりISO45001の導入の取り組みを進め、事業場内で働くすべての人の安全衛生管理を行います。

労働安全衛生方針

NOKグループ 安全基本理念 『安全は人間尊重経営の礎 私の願い、私の使命』

▶基本理念

イーグル工業株式会社及びそのグループ会社は、NOKグループ安全基本理念のもと、心身ともに健全で活力ある人材を育むと共に、無事故・無災害で快適な働き甲斐のある職場の実現に向け、労働安全衛生マネジメントシステムの考え方を活用して労働安全衛生活動に取り組めます。

▶行動指針

1. 全従業員の参加・協力のもと、事業活動に伴う危険源を的確に把握して評価し、重大リスクの低減に取り組めます。
2. 労働安全衛生目標を設定し、継続的改善により、パフォーマンスの向上を図ります。
3. 法規制及び同意するその他の要求事項を順守します。(その他の要求事項とは、例えば「加入している工業会の指針・綱領」等をいいます。)
4. 労働安全衛生及び健康確保は、良好なコミュニケーションの下に実現されるとの認識に立ち、職場での活発な話し合いを尊重します。
5. 労働安全衛生及び健康の確保に必要な教育・訓練を実施し、労働安全衛生及び健康の重要性について周知に務め、意識高揚を図ります。

2018年5月1日改訂

▶労働災害発生防止対策

2018年度は労働災害を防止するため、外部の労働安全コンサルタントによる安全衛生診断を実施しました。指摘いただいた点には内部では気づきにくい内容も含まれており、2019年度の安全衛生活動事項として目的・目標シートに反映させ、有効な労働災害防止対策として取り入れていきます。

さらに、2019年度は国内グループ会社に対しても同様の安全衛生診断を実施し、EKKグループ全体の安全衛生活動を積極的に推進していきます。

●労働災害発生件数の推移



▶心と体の健康

EKKグループでは、従業員の心身の健康維持・増進を図るため、24時間電話健康相談サービス(無料)を実施しています。さらに、産業医、保健師、看護師、管理職が共同で従業員のメンタルヘルスケアに取り組む等、心身の健康管理を積極的にサポートしています。

●電話健康相談サービスの実績(2018年度)

相談内容	件数
健診・人間ドックに関する相談	8
健康維持・増進に関する相談	6
気になる体の症状についての相談	293
治療に関する相談	238
母子健康に関する相談	5
育児相談	53
家庭看護に関する相談	81
ストレス及びメンタルヘルスに関する相談	66
医療機関の相談	43
夜間・休日の医療機関の案内	25
その他	49
合計	867

※上記件数は、NOK、EKKグループの合計

2018年度は、従業員の健康維持・増進サポートの一環として、内臓脂肪測定会を実施しました。内臓脂肪は生活習慣病を引き起こす原因の一つであるため、従業員が自身の健康状態をチェックできる一つの指標として有効に活用しています。

内臓脂肪測定を受けた人数

320名



内臓脂肪測定会の会場



内臓脂肪測定器で測定中の様子

▶交通安全の取り組み

EKKグループでは、交通安全教育に積極的に取り組んでいます。夏と冬の長期連休前には、外部の有識者や内部講師による交通安全講話を受講しています。講話内容には、各事業場の要望や最新の交通安全状況を取り入れて、無事故・無違反の達成を目指しています。

また、5カ年ごとの無事故・無違反の社内表彰や、事業場ごとの社外の交通安全運動の参画等を通じて、従業員の意識高揚を図っています。

イーグル工業(株) 埼玉事業場の取り組み

従業員に対し、長期連休の前に交通安全講話を実施しました。運転時の注意点等を再確認し、安全運転への意識向上を図りました。(2018年12月24日)



埼玉事業場環境安全課による交通安全講話の様子



●主な安全関係の設備投資・法定点検費用

2018年度の主な投資内容(修繕含む/計79,083千円)

1. 埼玉事業場 (3,658千円)	<ul style="list-style-type: none"> ●集塵機排気ダクト工事 ●消防設備点検・修繕 ●階段ノンスリップ修繕
2. 岡山事業場 (66,336千円)	<ul style="list-style-type: none"> ●生活用水地下タンク地上化工事 ●外製先貸与設備安全対策 ●薬液保管タンク防液堤設置工事 ●加硫成形機安全対策
3. 高砂事業場 (3,426千円)	<ul style="list-style-type: none"> ●熱中症対策用品 ●リップ仕上機非常停止用フットスイッチ追加
4. イーグルブルグマンジャパン(株) 新潟事業場 (5,663千円)	<ul style="list-style-type: none"> ●酸素濃度計、ガス漏れ検知警報器定期校正 ●LPG供給設備更新

ステークホルダーとともに

EKKグループは、社会とともに歩み、発展していくために、各拠点がステークホルダーの皆様とさまざまなかかわりを持っています。

▶お客様・お取引先様とともに

EKKグループは、サプライチェーンを構成するお取引先との相互信頼に基づくパートナーシップを確立し、お客様視点に立った製品・サービスをお届けしていくことで、社会から求められ、信頼される品質づくりに努めています。

●中国那智不二越グループ様から「品質管理賞」受賞

(Eagle Industry Sales (Shanghai) Co., Ltd.)

当社は、中国那智不二越グループ様へ建設機械の油圧機器用モーター向けにフローティングシール（中国国内のEIW※で製造）を納入しています。フローティングシールは、油圧シヨベルやホイールローダー等の建設機械に装着され、機器内部の油が外部に漏れることを防ぎます。

2018年7月20日、中国の上海市において、中国那智不二越グループ様の「2018年サプライヤーミーティング」が開催されました。その席上で、主要サプライヤー76社中、製造元であるEIWと当社は2017年度において最も品質管理が行き届いていたサプライヤーとして「品質管理賞」を受賞しました。表彰式後、同社関係者や主要サプライヤー65社からの総勢200人を超える出席者を前に、EIWの馬総監が品質管理の活動事例を発表し、好評を博しました。

今後も品質管理に努め、お客様に貢献していきます。

※EIW：Eagle Industry (Wuxi) Co., Ltd.

▶株主・投資家とともに

上場企業の責務として諸法令及び証券取引所規則に基づいた適時適切な情報開示を実施するとともに、株主・投資家の皆様との対話を行う環境を整備しています。

●2018年度のIR活動・株主総会開催の概要

イーグル工業(株)のIR活動は、「ディスクロージャーポリシー」に基づいた情報開示の基準・方法等に従って実施しています。財務情報や事業の動向について理解を深めていただくため、決算説明会・個別ミーティングの開催を中心に、年2回の報告書の作成、ウェブサイトにおけるIR情報の発信を行っています。また、定時株主総会の開催にあたっては、招集通知の発送前開示や英訳提供等コーポレートガバナンス・コードに基づいた対応にも取り組んでいます。



(株)不二越 取締役 浦田様(左)より、当社の小林総経理(右)へ「品質管理賞」が授与されました。



2019年3月期決算説明会(2019年5月13日開催)の様子

▶地域とともに

EKKグループは、地域に信頼される企業市民であることを目指して、地域貢献活動を継続的に実施しています。従業員が活動の主体となることで、地域社会とのコミュニケーションを一層深めています。

●地域交通安全運動への取り組み

(イーグルハイキャスト(株))

島根県西部は人口の少ない地域ですが交通事故は少ないのが実情です。

イーグルハイキャスト(株)では、当社秋祭りでのパトロールカーや白バイ展示及び体験試乗会の実施、春・秋の「全国交通安全運動」における幹線道路での交通安全啓発活動への参加、交通安全推進機関・団体への参画と地域住民総ぐるみ交通安全運動への参加等々を行っています。また、島根県では子ども・高齢者の交通事故比率が高く、幼稚園児への交通安全教育活動や、高齢者に安全反射材を配布する活動にも参加しています。

これからも「お役立ち」の心で、貢献を続けていきます。



島根県警察シンボルマスコット「みこびーくん」と交通安全活動の様子

▶循環型社会とともに

EKKグループでは、製品を通じて地球環境の保全に貢献することはもちろん、各拠点においても、従業員が工夫して環境にやさしい取り組みを進めています。

EKKグループの製品は、自動車等のいわゆるmoving vehicleのみならず、船舶、ロケット、航空機でも使われています。いずれの場面でも、省エネ・環境保全に貢献していますが、製品を支える従業員も環境保全への意識を持ちながら働いています。

イーグル工業(株)本社では、従業員の自主性を尊重し、従業員からの提案を会社が実現していくという活動を行っています。2018年度は、従業員からの提案で「アイシティecoプロジェクト」(HOYA(株)アイケアカンパニー様)に参加し、使い捨てコンタクトレンズの空ケースリサイクル活動に参加しました。

かけがえのない豊かな自然を次世代に残していけるよう、これからもより良い品質の製品の提供とともに、従業員が自主的に環境保全活動に取り組むことのできる職場づくりに努めていきます。



従業員が積極的にコンタクトレンズの空ケースを集めました。

ガバナンスの取り組み

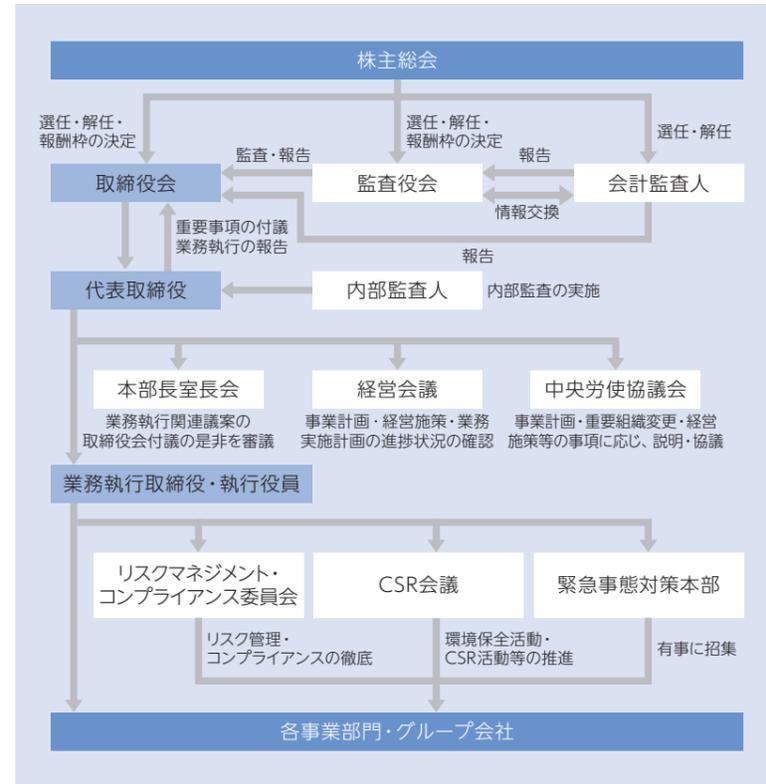
社会から信頼され、企業価値を継続的に向上していく企業であるために、公正で効率的な経営システムを構築し、誠実な運営に努めています。

コーポレート・ガバナンス

EKKグループは経営の意思決定をただちに実行に移せるよう常に組織の見直しを行うとともに、大幅な権限委譲と責任の明確化を図り、最大の成果を達成しうる体制の整備に努めています。特に経営会議をはじめとする各種会議には、その重要性に応じ監査役、労働組合の参加を得ることで経営の透明性を保っています。さらに経営トップによる本部・事業部診断では経営層レベルにおける問題点の把握と共通認識が図れる体制をとっています。

また、企業活動の多様化、グローバル化等に伴い企業としてのリスク管理の重要性が増していることから、リスクマネジメント・コンプライアンス委員会を設置し有事の備えとしています。加えて、全従業員を対象とした行動規範を策定し、モラルの向上を図っています。

● コーポレート・ガバナンス体制



コンプライアンス

▶ 国内コンプライアンス教育

EKKグループの国内拠点では、従業員が日頃からコンプライアンス順守を心掛けた行動をとることができるよう、従業員の意識づけに努めています。2018年度は、従業員にコンプライアンス順守が従業員自身を守るためのものであることと知ってもらうための、Q&A形式の教育を実施しました。

▶ 海外コンプライアンス教育

EKKグループの海外拠点では、各国の文化・慣習にあった教育を実施しています。中国のEagle Industry (Wuxi) Co., Ltd.では、「コンプライアンス手帳」を作成し、従業員のコンプライアンス順守への意識向上を図っています。



「コンプライアンス手帳」

● コンプライアンス意識の定着



人権の尊重と安全で働きやすい職場環境確保のために、全従業員のコンプライアンス意識の定着を図っています。

「贈収賄防止規程」「贈収賄防止ガイドライン」の運用

EKKグループでは、贈収賄違反行為を行うことがないように、禁止行為を明確にしました。また、従業員が公務員と仕事をする場合には、相手方公務員に適用される法令の確認をする等慎重な対応を求める規程を定め、贈収賄防止を徹底しています。従業員が正しい知識を持ち、相互に気配りのできる職場環境を作り、健全な企業活動を行えるよう取り組んでいます。



「贈収賄防止規程」「贈収賄防止ガイドライン」の運用に関する打合せの様子(イーグル工業(株) 業務本部 総務部 法務課)

リスクマネジメント

事業活動に潜むリスクを認知し、その発生を防止するとともに、緊急事態発生時の対応を定めるため、EKKグループは2003年に「リスクマネジメント方針」及び「リスクマネジメント規程」を制定しました。

各室・本部・事業部及び各グループ会社は、リスクマネジメント方針に基づき、企業倫理・法令順守の徹底及びリスクマネジメントの推進に努めるとともに、これらの活動を通じてより高い企業倫理の醸成を図っています。

▶ リスクマネジメントの運用体制

● リスクマネジメント・コンプライアンス委員会

事業活動に潜在するリスクを抽出・評価して、組織的認識のもと、予防策の推進を図ります。

● 緊急事態対策本部

緊急事態が発生した場合、総力を挙げて状況の早期把握に努めるとともに、迅速・的確な状況判断のもと初動体制を確立し、被害の拡大防止を図ります。

● 内部通報窓口

従業員から寄せられる倫理疑義事項(法令、業界のルール、社会規範に照らした疑問事項等)に関する相談の解決と、適切な企業行動の維持を図ります。この通報窓口は、社外からの強制的な摘発、従業員等内部者による外部機関への告発、あるいは外部からの批判によってではなく、会社組織自らの力で、従業員の協力を得ながら、不公正な商慣習・違法行為・問題ある取引慣行等を事前に発見し、主体的に解決するための「自浄制度」です。

● リスクマネジメント体制

